

## 1. 「平成28年4月度 修習技術者研修会」報告

2016.05.12  
修習技術者支援実行委員会  
委員補佐 新海平

## 2. 研修会概要

日時 平成28年4月9日(土)  
13:00～19:45  
主催 社団法人日本技術士会  
修習技術者支援委員会  
会場 日本技術士会葺手第二ビル5階

## 3. 研修会の内容

修習技術者研修会 司会	13:00～19:45 川村 智
開会挨拶 修習技術者支援委員会 副委員長	13:00～13:05 石附 尚志
演習：課題の説明 修習技術者支援委員会 委員長	13:05～13:20 川村 智
グループ討議 (グループに分かれて討議)	13:20～15:20
休憩	15:20～15:30
講演 テーマ「プライバシーバイ デザインとプライバシー影 響評価」	15:30～16:30 瀬戸洋一氏
グループ討議の結果発表 (4グループの発表)	16:30～17:15
講評 修習技術者支援委員会 副委員長	17:15～17:20 野村 晃平
休憩	17:20～17:25
先端複合技術研究発表会 「3人のロボ開発」	17:25～18:05 武内晋哉氏
情報交流会	18:15～19:45

## 4. 研修会の参加者

今回の研修会は、技術士第一次試験合格者及び JABEE 修了予定者(修了者を含む)を対象とした修習技術者研修会であった。修習技術者を中心に20名が参加した。ただし、講

演内容に興味を持つ技術士の方も数名参加していた。

参加者の技術部門は、建設部門、情報工学部門、電気電子部門、他であった。参加者の居住地は、関東を中心とした参加者が多かったが、中部からの参加者もいた。なお、参加動機については複数回答であるため、実際に回答をいただいた16名からの結果である。

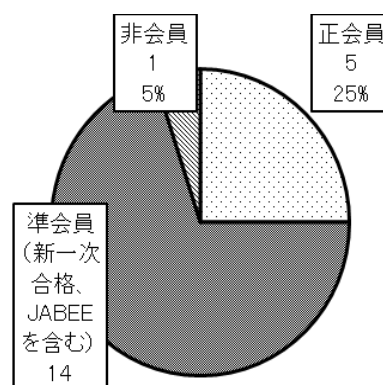


図1 参加者ステータス

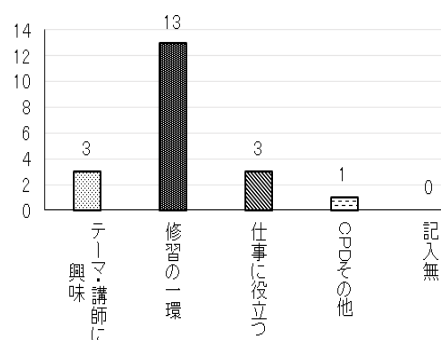


図2 参加動機 (複数回答)

## 5. 研修会の状況について

今回のセミナーでは、まず修習技術者支援委員会の石附尚志副委員長の開会挨拶があり、研修の目的は、文科省技術士分科会により2014年3月に制定された「技術士に求められる資質能力(業務遂行能力)」について理解を深めることであると、セミナーの趣旨説明があった。特に今回はコミュニケーション能力の向上を目的にして修習するという説明があった。

続いて、司会者であり修習技術者支援委員会の川村智委員長による「演習：課題の説明」

があった。「プライバシーについて」をテーマとして、グループ討議の進め方についての説明があった。この説明を聴いて、4つのグループに分かれてディスカッションが行われた。

#### ◆ グループ討議について

グループ討議は、4グループに分かれて、120分間行なわれた。テーマ「プライバシーについて」を前提として仮定・想定するシステムを各グループで考え、利用予定者の問い合わせの対応およびプライバシー影響評価を定着化するための提案に対して討議をした。



写真1 ディスカッションの状況

#### ◆ 講演について

本研修ではグループ討議の後に講演を実施した。

瀬戸氏の講演は、「プライバシーバイデザインとプライバシー影響評価」についてであった。

「個人情報とプライバシー」はどの国においても最近の情報技術において重要な関心事であり、国際標準で規格化が進んでいる。「プライバシーバイデザイン」とはプライバシー・リスクを最小限にするための原則をいい、その適用事例を瀬戸氏は説明した。また、プライバシー影響評価はプライバシーへの影響度を事前に評価し、その回避または緩和のための法制度・運用・技術的な変更を促すための一連のプロセスであり、国内での特定個人情報保護評価との比較を説明した。



写真2 瀬戸洋一氏の講演状況

#### ◆ グループ#Aの発表

仮定・想定するシステムは「電子カルテ医療システム」であり、利用する側を考慮し、データの暗号化や作業員への倫理教育などを説明した。プライバシー影響評価として第三者機関による監査・公表することを説明した。



写真3 グループ#Aの発表状況

#### ◆ グループ#B発表

仮定・想定するシステムは「討議システム『商業ビル建設・運営システム』」であり、不信・不安をなくし、プライバシー影響評価と対策などを説明した。工夫した点として公表・非公表情報の切り分けが必要であることも説明した。



写真4 グループ#Bの発表状況



写真6 グループ#Dの発表状況

#### ◆ グループ#Cの発表

仮定・想定するシステムは「生活指導管理システム」であり、ユーザは教員であり生徒や保護者の情報を扱うことを説明した。教育体制やプライバシー影響評価の定義化などを説明した。



写真5 グループ#Cの発表状況

#### ◆ グループ#D発表

仮定・想定するシステムは「地元商店街のシステム」であり、扱う情報は顧客のオーダー情報である。内部と外部でセキュリティ対策および瀬戸氏の講演後に考えが変わったことを説明した。

#### ◆ 講評

本グループ発表に対して、修習技術者支援委員会の野村晃平副委員長が講評した。

グループAの発表については、個人情報漏えいは戻らない点に注意が必要であると述べられた。

グループBの発表については、安全・安心とプライバシーとが Win-Win 関係であると述べられた。

グループCの発表については、基礎・基本設計段階で情報の取り扱いに気付きが必要であると述べられた。

グループDの発表については、企画や基礎・基本設計段階での対策コストは運用段階でのコストの100分の1であると述べられた。

最後にコミュニケーションは聞く力を合わせて始めて成立するものであり、本グループ発表に際し、時間内にまとめられていて、コミュニケーション能力をうまく使っていたと述べられた。

#### 6. 先端複合技術研究会発表

題目：「3人のロボ開発」武内晋哉さん（情報工学部門修習技術者）

宇宙開発や災害救助、人的支援で人間にできない部分においてロボットの活躍を期待することが可能である。ロボット研究開発は、成長分野であり、特に生活分野は成長率が高く、エンターテインメント系ロボットの研究開発は価値が高い。

この発表では、以下のロボットの開発についての説明であった。

(1) i-SOBOT に音声合成・認識機能を付加し

秘書と天気予報提示機能を実現

- (2) レゴロボットのセットを組み立て、人間型にし、2足歩行を実現
- (3) 部品の半田付けレベルから新ロボットを組立て

質問者からは、有益で様々なアイデアや意見が出され、活発な議論がされた。



写真7 武内氏の発表

## 7. 情報交流会の状況について

情報交流会には、今回も大勢の方が参加した。修習技術者支援委員会関係者と研修会参加者として、グループ討議の内容などを踏まえた、活発な意見交換が行われた。また、今後の修習活動に向けても、積極的な情報交換が行われた。

以上